

看護学科

講義要綱

科目	形態機能学 I	単位	1	開講時期	1年前期	
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修	
担当者	看護師 和田 愛(8) 笹田 恵(10) 今井 弓珠(6) 理学療法士 澤野 公一(6)					
授業目的	看護学の視点から人体を系統だてて理解する。					
到達目標	体の中をイメージし、説明できる。 部位の名称や臓器の名称・構造を知る。 生きていることを体の外側から測定する方法とその原理を知る。 生きていることを支える日常生活行動を知る。					
授業概要	からだのつくりと営みを日常生活行動と関連付けて考えられるように授業を進めます。形態機能学を学ぶ意味について導入を行い、看護の方法と関連付けて看護の視点を明確にしていきます。					
授業方法	覚える、暗記するだけでなく、図に示す、学生同士で説明しあう時間をもちながら授業を進行します。					
授業展開	回数	内容			準備等	
	1	形態機能学を学ぶということ 動く・眠る、食べると排泄するの関連性 生命維持、日常生活行動、社会生活を営む			和田 愛	
	2	動く				
	3	姿勢 日常生活の基本的動き 骨の生まれ変わり				
	4				澤野 公一	
	5	動く				
	6	骨格・骨格筋・関節				
	7	眠る からだのリズム (深部体温の変化・ホルモンの調節) 眠り ノンレム睡眠、レム睡眠、睡眠パターン			和田 愛	
	8				笹田 恵	
	9	食べる				
	10	食欲、食行動、咀嚼し味わう、嚥下				
	11	消化管の構造と機能 消化と吸収				
	授業展開	12	トイレに行く			今井 弓珠
		13	排尿：尿意・排尿・尿の生成・体液調整・ 腎臓・膀胱・尿道の構造			
		14	排便：便意・排便 肛門の構造と機能			
15		終了試験			笹田 恵	
履修条件	問題集で復習すること					
評価方法	小テストと終了試験・レポートを総合し評価します。					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 菱沼典子 日本看護協会出版会					
参考書						
備考						

看護学科

講義要綱

科目	形態機能学Ⅱ	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	看護師 木下真理子 (14) フラピエかおり (16)				
授業目的	看護学の視点から人体を系統だてて理解する。				
到達目標	体の中をイメージし、説明できる。 部位の名称や臓器の名称・構造を知る。 生きていることを体の外側から測定する方法とその原理を知る。 生きていることを支える日常生活行動を知る。				
授業概要	からだのつくりと営みを日常生活行動と関連付けて考えられるように授業を進めます。看護の方法と関連付けて看護の視点を明確にしていきます。				
授業方法	覚える、暗記するだけでなく、図に示す、学生同士で説明しあう時間をもちながら授業を進行します。				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	形態機能学Ⅱのイントロダクション			木下真理子
	2	恒常性維持のための調節機構：神経調節 ①認識し判断し記憶する。(中枢神経) 脳・脊髄の構造と機能 脳の高次機能 ②情報を伝える。(末梢神経) 脳神経・脊髄神経・自律神経の構造と機能 ③どのように情報を伝えるか。 神経伝導路			フラピエ かおり
	3				
	4				
	5				
	6				
	7	恒常性維持のための調節機構：神経調節 情報を得る(受容器) 見る・におう・触れる 会話する 話す・聞く・言葉			木下真理子
	8				
	9				
	10				
	11	恒常性維持のための調節機能：液性調節 液性調節とは ①ホルモンの作用機序 ②ホルモンの分泌調節 ③恒常性維持のためのホルモンの働き ④ストレスと恒常性維持			フラピエ かおり
	12				
	13				
	14				
15	終了試験			木下 真理子	
履修条件	問題集で復習すること				
評価方法	小テストと終了試験・レポートを総合し評価します。				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 医学書院 重要疾患ドリル2022 フラピエかおり メヂカルフレンド社 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 菱沼典子 日本看護協会出版会				
参考書	適宜紹介します。				

備考						
看護学科	講義要綱					
科目	形態機能学Ⅲ	単位	1	開講時期	1年後期	
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修	
担当者	看護師 木下真理子(8) 今井 弓珠(12) フラピエかおり(10)					
授業目的	看護学の視点から人体を系統だてて理解する。					
到達目標	体の中をイメージし、説明できる。 部位の名称や臓器の名称・構造を知る。 生きていることを体の外側から測定する方法とその原理を知る。 生きていることを支える日常生活行動を知る。					
授業概要	からだのつくりと営みを日常生活行動と関連付けて考えられるように授業を進めます。看護の方法と関連付けて看護の視点を明確にしていきます。					
授業方法	覚える、暗記するだけでなく、図に示す、学生同士で説明しあう時間をもちながら授業を進行します。					
授業展開	回数	内容			準備等	
	1	生命維持と生活行動 体温の恒常性			木下 真理子	
	2	流通の媒体—血液 血液の恒常性維持 物質の運搬				
	3	侵入物に対する防御				
	4	血液凝固				
	5	【脈を測ってみよう。脈ってなに？】 ・動脈と静脈の走行 ・心臓の位置と大きさ			今井 弓珠	
	6	【血液が逆流せずに重力に逆らって流れることができるのはなぜか？】 ・心臓の収縮と拡張 ・弁の開閉 ・圧差 ・3つの補助ポンプ				
	7	【心臓が動き続けられるのはなぜ？自分で止めたり動かしたりできるの？】 ・心筋の特徴・刺激伝導系・冠状動脈				
	8	【なぜ私たちの身体は腐ってしまわないの？(スーパーで売っている肉は…)】 ・毛細血管の特徴・拡散 ・濾過と再吸収				
	9	【血圧って何？血圧が低い・高いってなに？】 ・心拍出量の調整 ・血管収縮状態の調整 ・血圧測定の根拠				
	授業展開	10	息を吸う・吐く ①呼吸とは ②呼吸器の構造			フラピエかおり
		11	③肺活量・換気量・1秒率 ④呼吸音			
		12	ガス交換 ①外呼吸と内呼吸 ②血液によるガス交換・ガスの運搬			
	授業展開	13	息を吸う・吐く ①呼吸運動の神経支配 ②呼吸運動 ③化学受容体			フラピエかおり
		14	酸塩基平衡			
15		終了試験			今井 弓珠	
履修条件	解剖生理の問題集で復習すること					
評価方法	小テストと終了試験・レポートを総合し評価します。					

テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 重要疾患ドリル2022 フラピエかおり メヂカルフレンド社
------	---

看護学科 **講義要綱**

科目	形態機能学Ⅳ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修

担当者 看護師 亀山 美穂（6）西谷 沙紀（9）

授業目的 看護学の視点から人体を系統だてて理解する。

到達目標 体の中をイメージし、説明できる。
部位の名称や臓器の名称・構造を知る。
生きていることを体の外側から測定する方法とその原理を知る。
生きていることを支える日常生活行動を知る。

授業概要 からだのつくりと営みを日常生活行動と関連付けて考えられるように授業を進めます。看護の方法と関連付けて看護の視点を明確にしていきます。

授業方法 覚える、暗記するだけでなく、図に示す、学生同士で説明しあう時間をもちながら授業を進行します。

	回数	内容	準備等
授業展開	1	お風呂に入る① 【人はなぜお風呂に入るの？】 ・お風呂に入る意味を学ぶ 【お風呂に入らなかつたらどうなる？】 ・垢の蓄積 ・皮膚と付属物の構造と機能 (表皮・真皮・汗腺・脂腺・毛・爪) ・皮膚と粘膜の構造と機能 ・感覚器、免疫応答の場としての皮膚 【お風呂に入ったらどうなるの？】 ・温浴効果 (皮膚・粘膜の血管と神経)	亀山美穂
	2	お風呂に入る② 【お風呂に入るために必要な力は？】 ・お風呂に入るとい認識－認知機能 ・お湯の準備－感覚機能 ・身体の準備－運動機能 ・身体を洗う－運動機能	
授業展開	3	お風呂に入る③ 【年齢による違いはある？】 ・成長と老化 による変化 (皮膚、付属物、粘膜の構造と機能) (お風呂に入るための身体機能) 【お風呂に入る意味】	亀山美穂
	4	性を表現する①	西谷沙紀
	5	性を表現する②	
	6	性表現する体の仕組みと機能はどうなっている	
	7	性表現する体の仕組みと機能はどうなっている	
	8	終亦試験はどこからくるの？】	

履修条件 問題集で復習すること

評価方法 小テスト・終了試験・レポート・授業態度を総合し評価します。

テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院	系統看護学講座 専門分野
	成人看護学 皮膚 医学書院 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 菱沼典子 日本看護協会出版会	

看護学科 講義要綱

科目	看護臨床判断の基礎	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義・グループワーク	30	必修区分	必修
担当者	看護師 加茂川 将美			
授業目的	からだのしくみを理解し、健康・疾病・障害について看護師らしく考える基礎を養う。			
到達目標	形態機能学での知識を活用して、からだの中でおきている状態とその根拠を明確に表現できる。			
授業概要	形態機能学で学んだ知識を活用してからだの中でおきている状態を個人・グループ・クラス全体で考え思考・判断力を養います。			
授業方法	覚える、暗記するだけでなく、図に示す、学生同士で説明しあう時間をもちながら授業を進行します。			
授業展開		内容	備考	
	1	看護臨床判断の基礎とは確認テスト	講義・グループ分け・事例提示	
	2	からだの中で何がおきているのか、形態機能学の知識を活用して表現する。	事例別 小グループワーク	
	3		事例別 中グループワーク	
	4	事例パート1	全体発表 パート2事例提示	
	5	からだの中で何がおきているのか、わかるためにはどのような知識や情報が必要か表現する。	事例別 小グループワーク	
	6		事例別 中グループワーク	
	7	事例パート2	全体発表	
	8	からだの中で何がおきているのか判断し看護につなげる。 看護師と患者のやり取りから、患者理解のための情報を得る。看護師と患者の思考について考える。 事例パート2	看護師・患者のやり取りから情報を得る。やり取りの中にない必要な情報は患者に質問する	
	9	看護師と患者のやり取りの中で得られた情報から、患者に何が起きているのか判断する。 事例パート2	事例別 小グループワーク	
	10		事例別 中グループワーク	
	11	事例パート2	全体発表	
	12	患者に必要な看護について考える。 事例パート2	事例別 小グループワーク	
	13		事例別 中グループワーク	
	14	事例パート2	全体発表	
15	まとめ/確認テスト			

履修条件	形態機能学の知識を活用した科目になります。復習して授業に臨んでください。		
評価方法	課題提出状況・内容	グループワークの参加状況	確認テスト
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野	解剖生理学 系統看護学講座	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ
参考書	解剖整理の問題集で復習すること 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 菱沼 典子 日本看護協会出版会		

看護学科 講義要綱

科目	生化学	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	海野 けい子				
授業目的	健康なからだがどのように機能し、維持され、調節されているか、病気がいかに成り立っているか、生化学的視点から学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体物質の基礎知識とその物質代謝を基にして病気や病態をとらえる。 2. 臨床に広く応用されている生化学検査の意味を理解する。 3. 健康なからだがどのように機能し、維持され、調節されているか、病気がいかに成り立っているか、生化学的視点から考えられるようになる。 				
授業概要	生化学は、実際に看護に携わるとき病気、治療を理解する上で重要な基礎知識となる学問です。講義を通し、下記を修得することを目標とします。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	生化学を学ぶための基礎知識			
	2	代謝の基礎と酵素・補酵素			
	3	糖質の構造と機能			
	4	糖質代謝			
	5	脂質の構造と機能 脂質代謝			
	6	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝 ポルフィリン代謝と異物代謝			
	7	遺伝子と核酸			
	8	遺伝子の複製・修復・組換え			
	9	転写			
	10	翻訳と翻訳後修飾			
	11	シグナル伝達			
	12	シグナル伝達			
	13	がん			
	14	練習問題			
15	終了試験・解説				
履修条件	30時間では生化学全般を理解することは困難であるので、生物学、生化学の予習・復習で理解を深めてほしい。また、テキスト以外に健康・病気に関する本を読むこと、インターネットでの検索等を行ってほしい。				

評価方法	定期の筆記試験の他、随時課題のレポート提出、出席状況、授業態度等による総合評価で行う。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 医学書院
参考書	ナーシンググラフィカ②臨床生化学 三井和浩編 メディカ出版 臨床生化学栄養学イラストレイテッド生化学 園田 勝編 羊土社
備考	

看護学科 講義要綱

科目	栄養学	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	榛葉 有希 (20) 管理栄養士 阿多 和行 (10)				
授業目的	体外から取り入れる栄養素と体内での役割を学び、機能障害やライフステージの特徴を理解した栄養管理の方法を学ぶ。				
到達目標	生体が発育・成長して健全な生命活動を営むために体外から取り入れる栄養素について学ぶ。栄養素の体内での役割を学ぶ。 機能障害別に健康回復に必要な食事療法について学ぶ。				
授業概要	<p>生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生活活動を営むために対外から取り入れるべきものが栄養素である。近年、栄養素の過剰摂取がメタボリックシンドロームと関係し、高齢者や若年女性で見られる栄養素の不足が栄養不良や疾病の増悪に関与することが指摘されている。栄養素の体内での役割・代謝を理解し、健康増進や疾病治療に栄養が極めて重要であることを学ぶ。</p> <p>各病態やライフステージの特徴を理解し、それに基づいた適切な栄養管理の方法を学ぶ。また「医食同源」という言葉があるように、食事と健康のつながりを認識し、学生自身が日々の食事への関心を深める。</p>				
授業方法					
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	チーム医療について 栄養管理の必要性について	榛葉 有希		
	2	エネルギーについて 生体・食品の視点から			
	3	栄養不良について PEM、過栄養、低栄養における生体反応について			
	4	食品中の栄養素について 炭水化物、脂質について			
	5	タンパク質、微量栄養素（ビタミン）について			
	6	微量栄養素（ミネラル）について			
	7	栄養状態の評価			
	8	栄養補給法について			
	9	ライフステージと栄養Ⅰ 乳幼児・学童期			
	10	ライフステージと栄養Ⅱ 妊娠期・授乳期・高齢者			
	11	栄養食事療法の基礎知識 循環器疾患の栄養食事療法（心疾患、高血圧、動脈硬化）	阿多 和行		
	12	消化器疾患の栄養食事療法 腎疾患の栄養食事療法			
13	栄養代謝障害の栄養食事療法（肥満、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）				

	14	糖尿病の献立作成
	15	術前・術後の栄養管理 終了試験
履修条件	自らの普段の食生活に目を向け、自分たちの身体の中でどの栄養素が過剰か不足かを体験し、栄養素の機能について毎食考えてほしい。何故我々は食事をするのか、栄養素を必要とするのかを学んでいただきたい。	
評価方法	出席状況、授業態度、試験の総合評価	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院 第7版 糖尿病食事療法のための食品交換表 文光堂（阿多先生のみ）	
参考書	ナースのための生化学・栄養学 香川靖雄 野沢義則 南山堂 エッセンシャル基礎栄養学 中屋豊 宮本賢一 医葉葉出版	

看護学科

講義要綱

科目	微生物学	単位数	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	三宅 正紀				
授業目的	病原微生物及び感染症の知識を理解し、看護実践における感染症の予防と学習支援に活かす。				
到達目標	病原微生物及び感染症に関する十分な知識を身につけ、看護実践における感染症の予防と治療に関して指導的な役割を担えるようになる。				
授業概要	微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）の分類、微細構造、形態学的特徴、生化学的性状・生物学的特徴、増殖、感染について解説する。また、さまざまな病原微生物がどのような感染症を引き起こすかについて概説する。さらにそれら感染症の感染経路やそれに対応するための滅菌方・消毒薬の種類、治療薬、および感染防御免疫について解説する。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	微生物学の概要及び歴史			
	2	細菌の性質（構造を含む）			
	3	真菌・原虫、ウイルスの性質			
	4	感染と感染症			
	5	感染に対する生体防御機構／自然免疫			
	6	感染に対する生体防御機構／獲得免疫			
	7	感染源／感染経路からみた感染症			
	8	感染症の予防（消毒と滅菌を含む）			
	9	感染症の診断・治療			
	10	感染症の現状と対策（院内感染を含む）			
	11	病原細菌と細菌感染症（1）			
	12	病原細菌と細菌感染症（2）			
	13	ウイルスとウイルス感染症（1）			
	14	ウイルスとウイルス感染症（2）			
15	病原真菌と真菌感染症及び病原原虫と原虫感染症 ／終了試験				
履修条件	習得すべき内容が多い科目であるが、講義では日常、医療現場等での具体的な事例を挙げながら、なるべくわかりやすく解説するので、教科書の内容と照らし合わせてよく復習して、効率的な学習をしてほしい。				

評価方法	出席状況、授業態度、課題レポートおよび終了試験を総合して評価する。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学疾病の成り立ちと回復の促進④ 医学書院 その他、随時参考資料を配付予定
参考書	
備考	

看護学科 講義要綱

科目	病理学	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	医師 中村 雅登(8) 臨床検査技師 山内 典子(6) 須藤 淳(6) 萩原 正寿(2) 勝俣雄登(2) 佐藤千紗子(1) 齋藤実佳子(1) 池ヶ谷佳寿子(1) 三浦いづ美(1)				
授業目的	人体の病理的な状態を理解し、健康状態や健康障害を把握するための検査について看護に活かす基礎知識を学ぶ。				
到達目標	【病理学総論・各論】(20) 人体の正常な状態と比較しながら病理的な状態を理解する。 系統的に病理学的変化の視点から理解を深める。 【臨床検査】(10) 健康状態や健康障害を把握する為の検査の目的・方法・測定値の意味を理解し、看護に活かせる基礎知識を養う。				
授業概要	形態機能学の知識を活用しながら、病理的な状態を理解する。検査の目的・方法を理解することで、正確な結果を得るための看護に活用できるようにする。測定値の意味を考えることで身体内部に起こっている状態を判断する看護に活用できるようにする。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	【病理学総論】 先天異常・代謝異常・循環障害・炎症・腫瘍の5つの病変カテゴリーから主な話題を抽出する。炎症・変性・壊死・過形成・免疫・老化などにも触れる。	中村 雅登		
	2				
	3				
	4				
	5	【病理学各論】 呼吸器の病理 消化器の病理 血液造血器の病理 腎泌尿器・生殖器系の病理	須藤 淳		
	6				
	7				
	8	【臨床検査】 臨床検査総論 血液検査・採血の大切さ	山内 典子		
	9				
	10	血液検査・採血の大切さ 生化学検査	萩原 正寿		
	11				
	12	一般検査(尿・便) 血液の基本 輸血と検査	府川 早樹子		
	13				
	14	免疫生化学的検査・生化学的ホルモンについて 微生物と感染対策について	大瀧 南海子		
15					
15	終了試験	三浦 いづ美			
		山内 典子			

履修条件	病理学が先行して、臨床検査の授業へと発展します。実際には、授業の進度が重なってきますので、学生各位が授業後にノート整理を行い、一つの科目として履修が進むように工夫して下さい。生化学など人体の正常な状態を学習した知識を活用しましょう。
評価方法	終了試験 病理学総論・各論60点 + 臨床検査40点
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院
参考書	
備考	

看護学科 講義要綱

科目	病態生理学 I	単位数	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師：伊藤 敦史 (10) (8) 奥山 邦昌 (2) 菊池 謙太郎 (2) 二宮 研 (2) 佐藤 雅洋 (2) 石井 齊宜 (2) 萩原 健 (2)				
授業目的	看護実践の基盤となる病態生理学について学ぶ。				
到達目標	【運動機能】 運動機能に障害を引き起こす骨格・筋系の疾患の原因、検査、病態、治療法について理解する。 【脳神経機能】 脳神経系の原因・検査・病態・外科的治療・内科的治療に関する基本的知識を修得する。				
授業概要	スライド・教科書で進める。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	脳神経系総論			
	2	代表的疾患の診断と外科的治療 くも膜下出血・脳出血・頭部外傷・脳腫瘍			
	3				
	4				
	5	代表的疾患の診断と内科的治療 パーキンソン病 てんかん 多発性硬化症 認知症 脳梗塞	伊藤敦史		
	6				
	7				
	8				
	9				
	10	大腿骨頸部骨折	奥山邦昌		
	11	整形外科下肢疾患の原因・診断・治療	菊池謙太郎		
	12	脊椎疾患の原因・診断・治療 椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊髄損傷脊髄造影	二宮 研		
	13	整形外科上肢疾患の原因・診断・治療	佐藤雅洋		
14	運動器合併症と治療 コンパートメント症候群、腓骨神経麻痺、深部静脈血栓、肺塞栓	石井齊宜			

	15	外傷性運動疾患	萩原 健
履修条件	人間はよりよく生きるために考え、目的に向かって行動します。運動機能障害が発生するメカニズムとその結果どんな生活上の不都合が起こるか考えましょう。救急患者の看護には、脳の病態に関する知識が不可欠となります。また、死亡率の上位を占める脳卒中に関する正確な理解は看護職のすべての方に必要とされます。なるべく実例を紹介して説明します。予習をしておいた方が効率的な学習ができます。既習の形態機能学と関連させた学習が必要です。授業内容のノートや資料は準備して臨みましょう。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 脳・神経 系統看護学講座 専門分野 運動器	医学書院 医学書院	

看護学科 講義要綱

科目	病態生理学Ⅱ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師：窪田 裕幸（2） 高柳 泰宏（2） 池田 誉（2） 石松 久人（4） 島田 孝夫（10） 遠藤 博之（6） 臼井 幸男（4）				
授業目的	看護実践の基盤となる病態生理学について学ぶ。				
到達目標	<p>【消化吸収・栄養代謝機能】 消化吸収機能障害・栄養代謝機能障害を引き起こす疾病の原因、病態、検査、内科的・外科的治療法を理解する。</p> <p>【内部環境調節機能：内分泌系】 内分泌の疾患の原因、病態、検査、治療を理解する。</p> <p>【内部環境調節機能：腎系】 腎機能の障害を引き起こす疾病の原因、病態、検査、治療を理解する。</p> <p>【内部環境調節機能：泌尿器系】 泌尿器の疾患の原因、病態、検査、治療を理解する。</p>				
授業概要	具体的なエピソードを交えながら講義する。				
授業方法	講義				
	回数	内容	準備等		
	1	主な疾患の原因、検査、病態、内科的治療法 ・食道炎・胃十二指腸潰瘍	高柳泰宏		
	2	主な疾患の原因、検査、病態、内科的治療法 ・潰瘍性大腸炎・クローン病・イレウス・大腸ポリープ	窪田裕幸		
	3	主な疾患の原因、検査、病態、内科的治療法 ・肝炎・肝硬変・肝臓がん・膵炎・膵臓がん・胆嚢炎	池田 誉		
	4	主な疾患の原因、検査、病態、外科的治療法 ・食道がん・胃がん・大腸がん・肝臓がん・膵臓がん 胆石・虫垂炎・腹膜炎・ヘルニア	石松久人		
	5				
	6	主な疾患の原因、検査、病態、治療法 ・腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全 腎疾患の症状と病態生理について	清藤博之		
	7				

授業展開	8	水と電解質の異常、高血圧、血液の異常、尿毒症 腎疾患の検査・治療・処置について 腎生検、透析療法、腎移植、食事療法、運動療法	逐藤 博之
	9	主な泌尿器系の疾患について 尿路・性器の感染症、尿路の通過障害と機能障害、 尿路結石症、前立腺肥大、膀胱癌、前立腺癌	臼井幸男
	10	泌尿器系の疾患の症状と病態生理について 尿の異常、排尿の異常、浮腫 泌尿器系の疾患の検査・治療・処置について 尿検査、腎機能検査、経尿道的操作および内視鏡検査、薬 物療法、膀胱内留置カテーテル	
	11	内分泌代謝疾患	島田孝夫
	12	内分泌疾患の理解、診断と治療 甲状腺疾患：橋本病、バセドウ病、甲状腺機能低下症、甲 状腺腫瘍 視床下部 - 下垂体前葉疾患：巨人症、クッシング病、 下垂体機能低下症 視床下部 - 下垂体後葉疾患：尿崩症 副甲状腺疾患	
	13	糖尿病の理解、分類と診断 治療…食事療法・運動療法・薬物療法 糖尿病の合併症	
	14	脂質代謝異常症の理解、診断と治療 病態生理と検査	
15	脂質代謝異常症の理解、診断と治療 病態生理と検査 終了試験		
履修条件	形態機能学で学んだ基礎知識をベースに病気の理解を深めていきます。授業に臨む前に形態機能学の基礎知識を復習しておくこと。さらにそれぞれの単元が短時間で行うため教科書をよく読んで参加しておくこと、さらに看護に発展出来るだけの知識を自分から身につける意欲を持って臨んでほしい。		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野	消化器 腎・泌尿器 内分泌・代謝	医学書院 医学書院 医学書院
参考書			
備考			

看護学科

講義要綱

科目	総合医療論	単位	1	開講時期	1年前期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	医師： 上牧 務				
授業目的	医学のあゆみや健康と疾病、医療体制について理解する。				
到達目標	医学のあゆみや健康と疾病、医療体制について理解する。				
授業概要	従来の「医学概論」の形式にとらわれず医療の実像を学び、医療・看護の問題をより深く理解するために、今後学んでいく病気と健康に関する多くの学問の相互関係に気付くため最初に学ぶ科目である。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			準備等
	1	保健・医療に携わる基本的内容の理解 ・生命とは・健康とは・病気とは			
	2	医療の歴史 ・医療と社会との関係・医療制度			
	3	現代日本の医療システム			
	4	最先端医療の現状			
	5	医療を受ける患者の立場の理解 ・自己決定権 ・情報公開			
6	インフォームドコンセント ・診療録開示				

	7	医療をめぐる新しい動向と望ましい医療のあり方	
	8	試験	
履修条件	看護学校の教育課程においては学習者（学生）の自己学習の精神を基本とする教育方針を厚生労働省も示しています。学生は日常生活において常に医療に興味関心を寄せて下さい。学校内で予定される授業だけでなく毎日の新聞記事にも注目して医療情勢（状勢）に注目してください。		
評価方法	筆記試験で評価する		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院		
参考書			
備考			

看護学科

講義要綱

科目	暮らしのしくみ	単位	1	開講時期	1年後期
授業形態	フィールドワーク（演習）講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	坂本希世子				
授業目的	地域住民のひとりとして日々の暮らしを支える、社会の制度、資源、環境について知り、地域の困りごとに関心を寄せる				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の暮らしを包括的に支えるためのしくみがわかる。 ・暮らしの中で起こる様々な課題を解決または改善するための制度・サポートを考える。 				
授業概要	私たちの「暮らし」を直接支える制度・サポートを具体的に学び、包括的に支えるしくみについて考える授業です。				
授業方法	フィールドワーク（演習） 講義 グループワーク				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	静岡市総合計画。全体のしくみ 困りごとを解決するための制度、行政の役割について考える			企画局企画課 講義、GW
	2	質の高い医療の確保のための医療体制			質の高い医療の確保 講義、GW
	3	誰ひとり取り残さない医療 こんなときどうする !!医療の窓口			
	4	日常生活とごみ問題を考える			ごみ減量推進課 講義とGW
	5	地球規模で考える、私たちの未来のためにできること			
6	災害と防災計画			危機管理総室	

7	支援が必要な人々の防災対策（事例）看護師に望むこと	ハシロ川治水計画 講義、GW
8	事例を通して上下水道のしくみと未来への課題	上下水道局 現地見学と講義、GW
9	家庭で起こる水問題とその対応	
10	税金と暮らしと経済	税務部 講義、GW
11	生存権と経済支援	
12	SDGs とその取り組み	企画局企画課 講義、GW
13	誰一人取り残さない医療を考える	
14	選択した地域の困りごとについて踏査、探索し、	まとめと発表
15	解決策を提案する	
履修条件	静岡地域学の後、学びます。	
評価方法	パフォーマンス評価 ポートフォリオ	
テキスト	適時、資料を提示します。	
参考書		
備考		

